

大王製紙株式会社可児工場 公害防止改善計画(R2年度)

大王製紙グループは、二酸化炭素排出量の削減を目指して、海外植林や古紙の高度利用、省エネルギーの推進、生物多様性の保全等に努め、持続可能な循環型社会の形成に取り組んでいます。可児工場は、令和2年度は以下の地球温暖化対策、臭気対策、黒液ボイラーのばいじん対策に取り組めます。

地球温暖化対策

対策事項	対策予定月
石灰焼成炉 ^{※1} の燃料を重油から都市ガスに変更	令和2年6月

石灰焼成炉の燃料を投入する部品の改造を行うことで、石灰焼成炉で使用する燃料を、C重油から、二酸化炭素の排出係数^{※2}が低い都市ガスに変更します。
これにより可児工場の二酸化炭素排出量を約1.4%削減することができます。

※1 石灰焼成炉とは、パルプ製造時に使用する生石灰(CaO)を循環再利用するための設備です。

2基あるうち、1基について実施します。

※2 二酸化炭素の排出係数

C重油:3.00tCO₂/t、都市ガス:2.23tCO₂/1,000Nm³

〔出典〕環境省 温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度

算定方法及び排出係数一覧 (参考1)燃料の使用に関する排出係数

臭気対策

対策事項	対策予定月
苛性化 ^{※3} タンク排気口へ冷却シャワーを増設	令和2年10月

昨年度までに、苛性化タンク4基の排気塔内部に冷却シャワーを設置して、臭いの成分を水に吸収・分離させることで、排出される臭いを含んだ空気を削減する対策を実施しましたが、まだ排出量が多い1基について冷却シャワーの増設を行います。

※3 苛性化:パルプ製造時に使用する薬品(主成分は苛性ソーダ)を循環再利用するための設備です。

黒液ボイラー^{※4}ばいじん^{※5}対策

対策事項	対策予定月
黒液ボイラーを停止して掃除する頻度を年2回から年4回に変更	令和2年4月～

黒液ボイラーの煙突から排出している“ばいじん”は大気汚染防止法で排出基準が定められており、適正に管理していますが、ばいじんの排出量を減らす管理技術の向上に継続して取り組んでいます。本年度は、黒液ボイラー本体や煙突などに付着するばいじんの掃除を、年2回から年4回に増やし、排出するばいじんの量を減らします。

※4 黒液ボイラー:パルプ製造時に発生する廃液(黒液)を燃料としています。可児工場には2基あります。

※5 ばいじん:燃料等の燃焼に伴い発生するもので黒液ボイラーばいじんの主成分は芒硝(硫酸ナトリウム、Na₂SO₄)です。

芒硝の安全性:食品添加物や医薬品としても使用されており、ほとんど有害性は無いものと考えられています。

毒物や劇物取締法の適用は受けていません。

芒硝の用途:乾燥剤、合成洗剤、入浴剤、食品添加物、医薬用原料、パルプの製造等に幅広く使用されています。

芒硝の性質:無色または白色の結晶で、水に溶けやすく、エタノールにはほとんど溶けません。

地域美化活動

活動内容	活動予定月
花いっぱい運動(工場周辺の清掃)への参加	令和2年11月
松野湖クリーン作戦(松野湖の清掃)への参加	令和2年11月
工場周辺道路清掃	毎週火・金曜日

地域とのコミュニケーション活動他

活動内容	活動予定月
・近隣の各種団体の工場見学受け入れ	随時
・就職活動を視野に入れた近隣高校のインターンシップ、企業実習、職場見学の受け入れ 〔設備・生産工程見学による工業知識の習得と併せて、将来の進路選択の参考にしてもらいたいと考えています。〕	随時
・土田自治連合会工場視察	令和2年度内
・市内近隣小学生の工場見学 〔より身近な家庭紙商品の製造工程を知ってもらうと共に、当社の環境への取り組みを理解してもらうため、市内小学校の工場見学を行います。〕	令和2年10月 ～ 令和2年11月
・土田地区センターまつり秋フェスタ！34への参加	令和2年11月
・令和3年可児市成人式への協賛	令和3年1月
・可児市環境フェスタへの出展	令和3年2月
・回覧板による可児工場内での設備点検情報の開示	令和2年5月、9月 令和3年1月
・地元の小学校の古紙回収	随時

※地域活動への参加や工場見学等については、新型コロナウイルスが収束するまでは自粛する考えです。宜しくお願い致します。

※大王製紙グループの「地球環境への貢献」に関する取組みを当社ホームページに掲載しています。

【大王製紙株式会社ホームページ】 <https://www.daio-paper.co.jp/csr/organic/>